

平成30年6月11日

## 人権作文感想

6月5日から3日間、いじめに関する人権作文を読んできました。その感想の一部を掲載します。この3日間で、みんなの中にたくさんの人権意識が芽生えてきたのではないのでしょうか？その気持ちを大切にして「日本一笑顔があふれる伊里中学校」にしていきたいです。

- ・「言葉は他人を救う暖かい毛布になる。」というところが強く印象に残っている。自分も人と話すとき、一度立ち止まって話していきたいと思う。
- ・自分の何気ない言葉で相手を傷つけてしまうこともあるのだとわかった。自分にとっては小さいことでも、相手にとってはすごく大きな事かもしれないと、よく考えて話したいと思った。
- ・自分がされていやなことは、相手にはしない。されてうれしいことは相手にもする。この考えは、とてもいいと思った。そんなことなかなかできることじゃないけどしようと思うことはすごいことだと思う。言葉の使い方は僕も注意したい。
- ・「いじめ」は、絶対にあってはならないと思う。いじめた方は「ごめんなさい」と謝ればよいただけ、しかし、いじめを受けた方は一生心に残る傷ができると思うから。私はいじめを止められる人になりたい。
- ・相手に何かを言うときには、よく考えてから発言しないといけないと思った。悪い言葉ではなく、良い言葉をたくさん増やしていけないと思った。
- ・「人間というのは、自分と違うものに偏見を持ってしまう。」というのが、悲しいことだけど、「その通りだな。」と思いました。関根さんが誰かの役に立てればと髪を伸ばしたというのが、素晴らしいことだと思いました。やろうと思って簡単にできることではないと思うので「すごいな。」と思いました。私もこれから小さいことの積み重ねをしていきたいと思いました。
- ・世界中の人々の外見、性格、能力がすべて同じだときっとつまらないだろう。みんな自分自身の個性を持っている。だから、「みんな違ってみんな良い」という言葉がある。人の価値を外見だけで判断してはいけない。互いの個性を認め合って生きていけるような世の中になってほしい。
- ・外見も性格も能力も違う人たちが集まってできているこの社会は、自分と意見が違うだけで、少し性格が変わるだけで差別や偏見が起きてしまう。それは仕方がないのかなと思った。でもそれを少しでもなくそうと努力をしていけば、この世の中から「偏見」や「差別」などと言う言葉が珍しいと感じられるようになるとも思えた。十人十色だということを忘れず、人と接していきたい。